日本語

目　次

1．はじめに …… 3
2．注意と警告 …… 3
3．V100各部の名称および機能
ヘッドユニット …… 4
各パーツ名称 …… 5
4．V100各ボタンの機能
セットアップモード …… 7
オペレーティングモード …… 7
5．V100スクリーンディスプレイの順序
バイレベルメモリー …… 8
6．V100基本機能
アッパーディスプレイモード
現在速度、走行距離、走行乗車時間、総乗車時間 …… 10
平均速度、最高速度、現在速度、ケイデンス …… 11
ロアーディスプレイモード
12/24時間時計、積算走行距離、現在速度、
気温、ストップウォッチ、中間走行距離 …… 12
デュアルバイクメモリー …… 13
7．V100付加機能＆特徴
最高＆最低気温、サービスタイマー …… 13
平均ケイデンス、最大ケイデンス、
電池残量警告、速度比較警告 …… 14
フリーズフレームメモリー(設定確認機能) …… 15
自動スタート …… 15

V100

スリープモード …… 16
走行乗車データリセット …… 16
オールクリア（トータルリセット）…… 16
8．電池のセット
ヘッドユニット …… 17
ワイヤレストランスミッター …… 18
9．セットアップモード＆プログラミング…… 19
10. 組み付け
コード式
スピードセンサーとマグネット…… 26
マウンティングブラケット …… 30
ヘッドユニット …… 31
ワイヤレス
ＷＬワイヤレススピードトランスミッター
とマグネット …… 32
ワイヤレスアクティブマウント …… 35
ヘッドユニット …… 36
組み付け後のテスト …… 37
11. トラブルシューティング
問題点／チェック事項／解決方法：サイクリング …… 38
12. 製品仕様…… 40
13. 保証規定
保証…… 42
交換および修理保証について …… 42
14. VETTAカスタマーサービスセンター …… 42

V100

1.はじめに

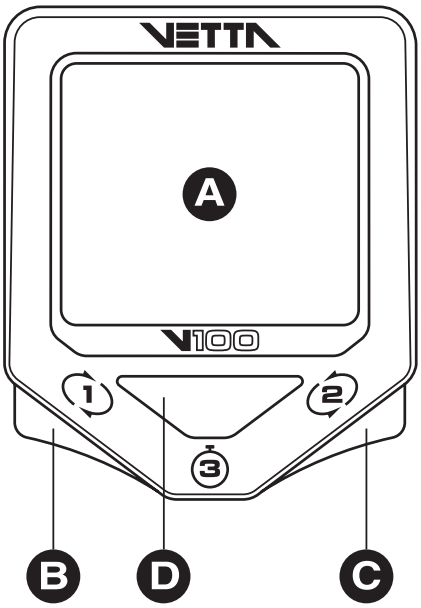
VETTAのV100サイクルコンピューターをお買い上げいただきありがとうございます。VETTAのV100シリーズはVETTAのコンピューターライン最新の進化を代表し、幅広い層のサイクリストに使用いただけるような設計になっています。特に、VETTAのV100モデルは、温度計、デュアルバイクメモリー、中間走行距離計、ストップウォッチ、サービスタイマーといった特徴のある性能と機能を幅広く備えています。VETTAのV100の機能をいろいろと試し、このプログラムの良さを存分に活用してみてください。そして、今後の参考にこのマニュアルを大切に保管しておいてください。

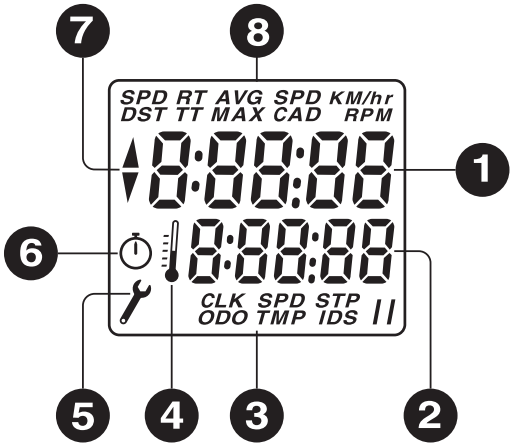
2.注意と警告

- VETTAサイクルコンピューターは精密な電子機器です。この製品をお買い上げになった販売店でお取り付け頂くようお薦め致します。この取扱説明書の間違った理解や機器の誤った取りつけは保証対象外になる可能性がございます。この製品に関して疑問等ございましたら、お買い求めになられた販売店にお問い合わせいただき、解決されるようお願い致します。
- ヘッドユニットは防水で、雨天に耐えられるようにシールされています。ただし、故意に水の中に入れたりはしないでください。
- ヘッドユニットを長時間、強い直射日光に当てないでください。
- 乗車時は必ずヘルメットを着用し、夜間は前後ライトを使用し、いつも前方に注意を払ってください。

3.V100各部の名称および機能

ヘッドユニット：表

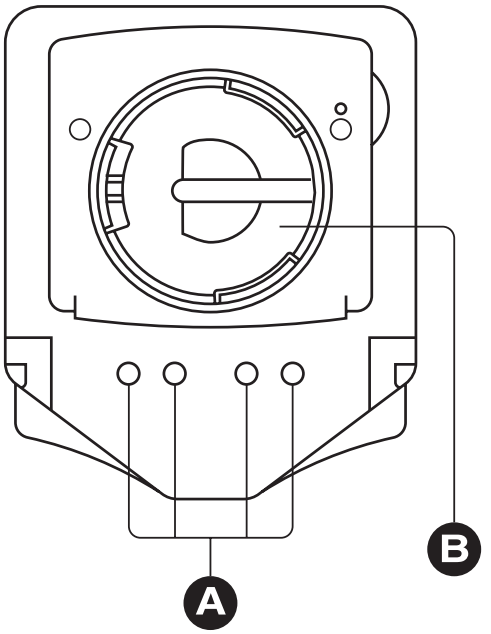




A メインディスプレイ
- **1** アッパーディスプレイ
- **2** ロアーディスプレイ
- **3** ロアースクリーン表示アイコン
- **4** 気温アイコン
- **5** サービスタイマーアイコン
- **6** ストップウォッチアイコン
- **7** 速度比較警告
- **8** アッパースクリーン表示アイコン

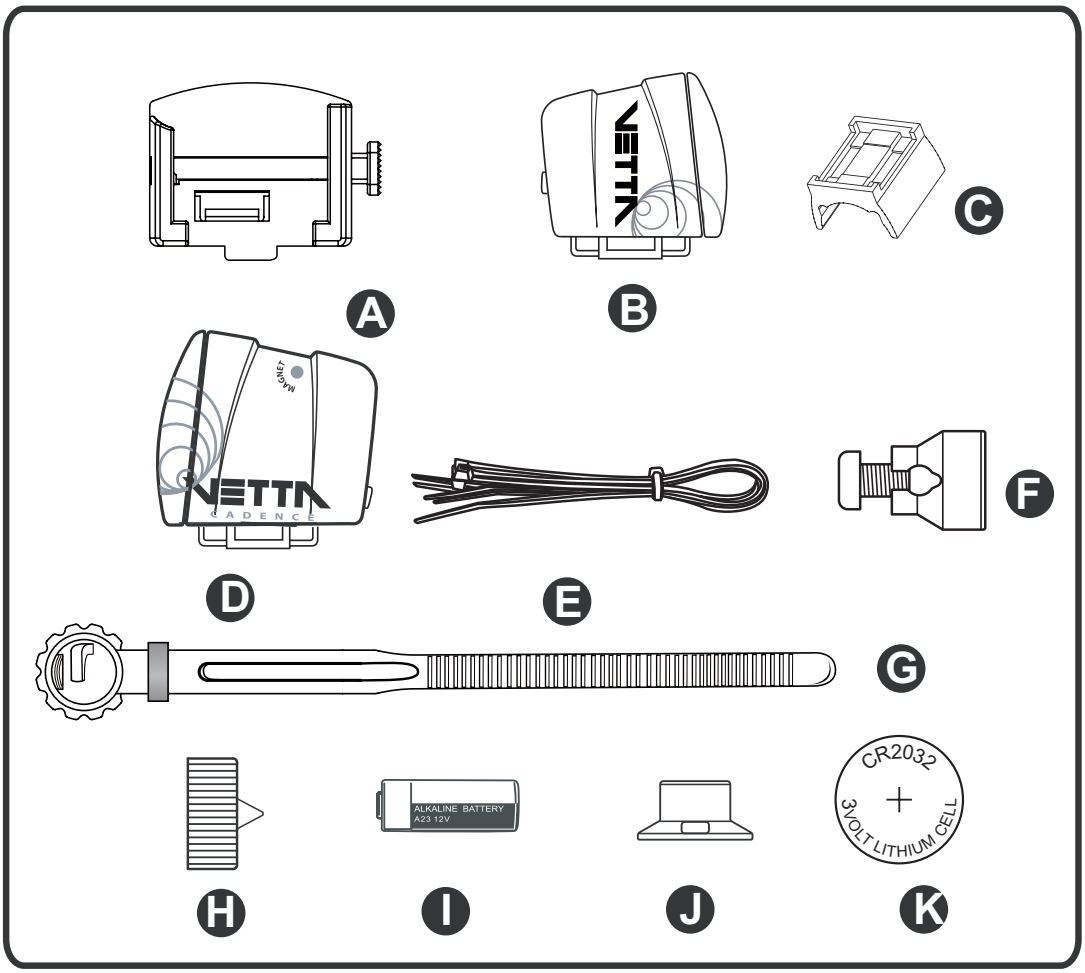
B ボタン１（左）
C ボタン２（右）
D ボタン３（中央）

ヘッドユニット：裏



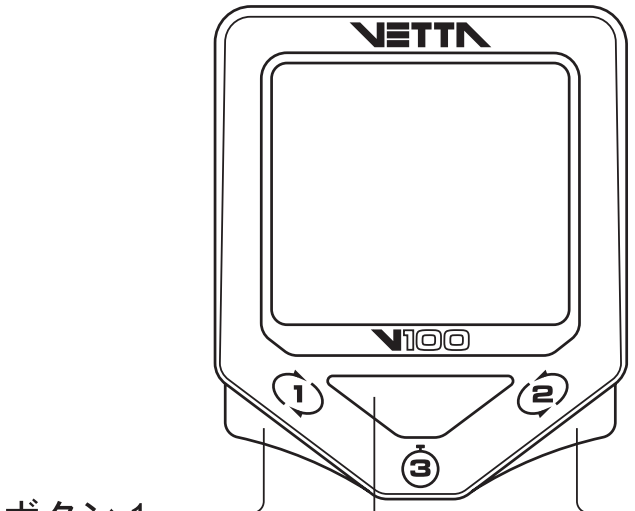
A接点
Bバッテリーケース
C バッテリーカバー

各パーツ名称



A ブラケットつきワイヤードスピードセンサー
B WLワイヤレススピードトランスミッター
C ブラケットラバーパッド
D WL2X Wireless Cadence Sensor
E タイラップ
F スポークマグネット
G Screw Strap
H スペーサー
I ワイヤレストランスミッターバッテリー（A23, 12ボルト）
J ケイデンスマグネット
K ヘッドユニットバッテリー（CR-2032, 3ボルト）

4.V100各ボタンの機能



セットアップモード

ボタン 1 : 数値単位を確定し、次の項目または画面に進みます。

ボタン 2 : 数値単位を変更します。押し続けると早く進みます。サービスタイマーではRTをゼロにリセットしてください。

ボタン 3 : 最初のセットアップ時では機能しません。

オペレーティングモード

ボタン 1 : ロアースクリーン表示アイコンと画面全体をスクロールします。ケイデンスセンサー装着時のみ、2 秒間押し続けると温度計モード(SPD/TMP)になり最高最低の気温が表示されます。SPD/CAD画面で 2 秒間押し続けると平均と最大のケイデンスが表示されます。

ボタン 2 : アッパースクリーン表示アイコンをスクロールします。どの初期画面モードでも 2 秒間押し続け、フリーズフレームメモリーを起動させます。

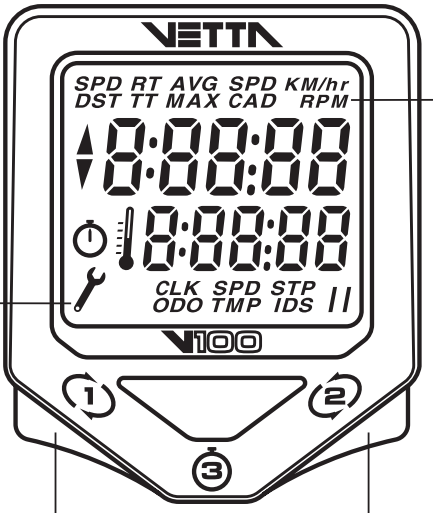
ボタン 3： タイマー及びストップウオッチをスタートし、ストップします。また、2 秒間押し続けると、タイマーやその他の乗車データをゼロにリセットされます。通常操作モード（NOM）からセットアップに切り替えた際システムチェックが行われSPD/DST画面モードへ移ります。

注：通常操作モード(NOM)でセットアップに入る場合

1. タイマーがオフになっていることを確認します。
2. SPD/DST画面モードへ進みます。
3. ボタン 1 とボタン 2 を同時に 2 秒間押し続けます。

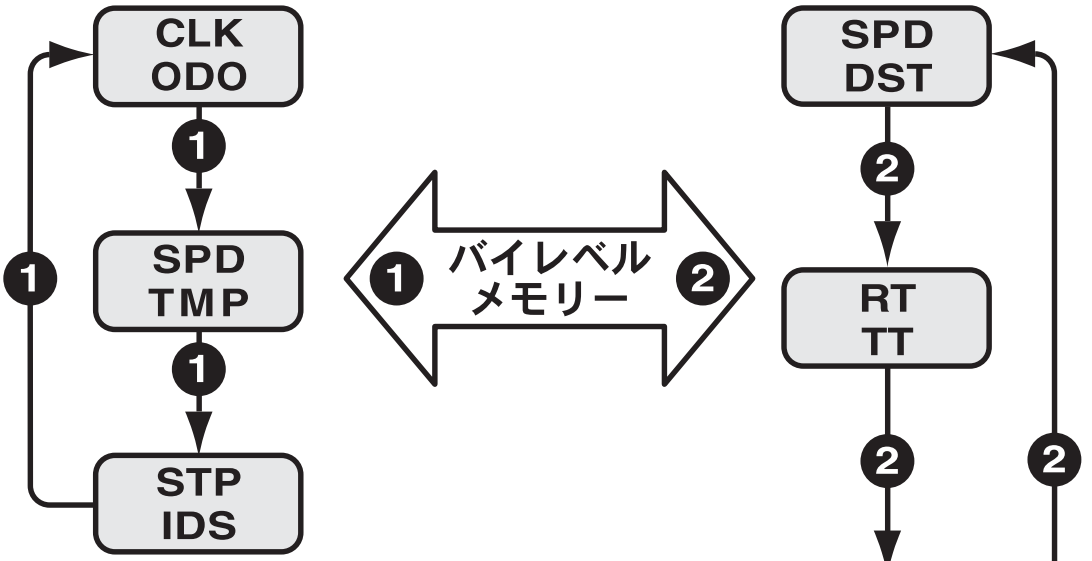
5.V100スクリーンディスプレイの順序：バイレベルメモリー

V100シリーズコンピューターは、上下画面モードの間でアクセスした最後の画面機能に戻るバイレベルメモリー機能があります。進み方や順序については次ページのイラストをご覧ください。



1 ロアーディスプレイ

2 アッパーディスプレイ



CLK → 時計
ODO → 積算走行距離
SPD → 現在速度
TMP → 気温
STP→ストップウォッチ
IDS→中間走行距離
SPD → 現在速度
DST → 走行距離
RT → 走行乗車時間
TT → 積算走行乗車時間
AVG → 平均速度
MAX → 最高速度
SPD → 現在速度
CAD → ケイデンス

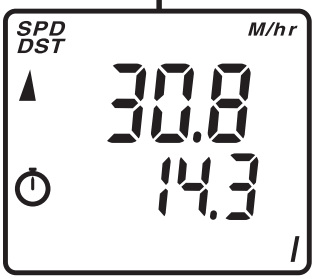
*（オプション）

6.V100 基本機能

アッパーディスプレイモード

現在速度 SPD

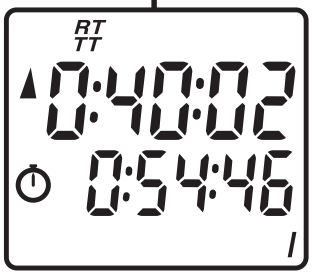
走行距離 DST



SPDは現在のスピードを表示し、継続して更新されます。DSTは現在の移動距離を表示します。最長走行距離（999.9）達成の後は自動的にリセットされます。移動距離はSPD/DSTスクリーンモードで表示され、車輪が回ると自動的にスタートし、総乗車時間（TT）タイマーが作動します。**DSTをゼロにリセットするには、SPD/IDSモード以外の画面からタイマーをオフにして、ボタン３を２秒間押し続けます。**

走行乗車時間 RT

総乗車時間 TT

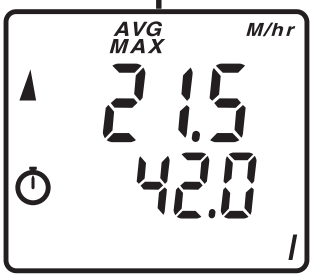


走行乗車時間と総乗車時間は同時に表示されます。走行乗車時間（RT）は実際に乗車していた時間がトータルで表示されます。タイマーが“0:00:00”にセットされ車輪が回ったときに自動的に測定されます。総乗車時間（TT）はスタートから終了までの全経過時間を表示しています。RTのように、TTもタイマーが“0:00:00”にセットされている場合のみ車輪の回転とともに自動的にスタートしますが、RT/TT画面モードでボタン３を押すことにより手動でスタートさせることもできます。RT/TT画面モードで降りる際にボタン３を押すことにより、TTを止めることが出来ます。RTとTTを両方ともリセットするには、タイマーを止めて、ボタン３を最低２秒以上押します。

注: TTが作動しているときは、ストップウオッチアイコン（⏱）が表示されます。作動してない時は表示されません。

警告 RTとTTタイマーが“0:00:00”になっていなかったり、手動で停止した場合には、RT/TTモードにおいてボタン3を押して必ず手動で再スタートしてください。そうしないと、コンピューターはスピードやその他の乗車データを記録できません。

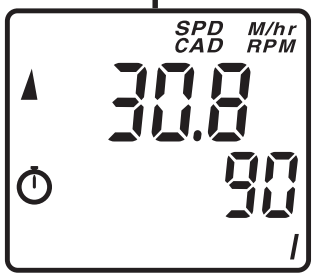
ライディング チップ:バイクが動いていてかつ、タイマーが作動していない状態のRT/TTスクリーンモードでボタン3を押すと、ライドタイマーは“0:00:00”にリセットされます。ボタン3を離し、RTとTTは車輪が回転するとスタートします。これはレースやローリングスタートでのトレーニングライドの時間測定にとても役立ちます。



平均速度 AVG

最高速度 MAX

平均速度及び最高速度を読み込み、AVG/MAX画面モードに同時に表示されます。平均速度は0.1マイルまたはkmごとに更新されます。**ボタン3を2秒間押すと両方ともゼロにリセットされ、STP/IDS以外の画面モードでタイマーがオフになります。(STP/IDSに関しては、P11をご覧ください。)**



現在速度 * SPD

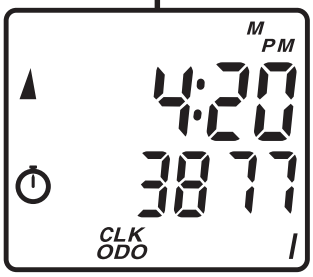
ケイデンス * CAD

*(オプション)

1分周期(RPM)でペダル回転数を測定して表示されます。SPD/CAD画面機能文字はケイデンスのセンサーを読み込み、ケイデンスシグナルがヘッドユニットで受信されたときに表示されます。現在の乗車データをリセット後、機能文字は消えますが、次のケイデンス入力時に再び表示されます。

注:RT/TTタイマーが機能していないと現在速度/ケイデンスは機能しません。

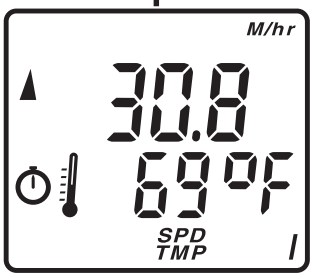
12/24時間時計 CLK
積算走行距離 ODO



時間がCLK/ODO画面モードで表示され、12または24時間フォーマットを選択できます。走行距離計はリセットを実行するか、電池交換するか、または乗車距離が最大制限を越えて走行距離計が自動的にゼロにリセットされるまで、積算距離が表示されます。

注:積算走行距離は電池交換の後、再読み込みできます。

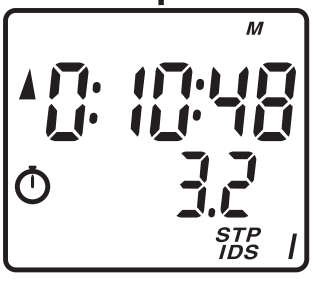
現在速度 SPD
気温 TMP



現在の温度はロアースクリーンの数値に表示され、1分に一度更新されます。温度表示が機能している時は温度計のアイコンが表示され、右の数値は摂氏“°C”か華氏“°F”の選択された記号で表示されます。ゼロ以下はマイナス(−)表示されます。

注:第2画面は最高、最低温度が上下のラインでそれぞれ表示されます。ボタン1を2秒間押し続けるとMax/MinTMP画面に切り替えができます。再度ボタン1を押すとSPD/TMP の初期画面に戻ります。

ストップウォッチ STP
中間走行距離 IDS

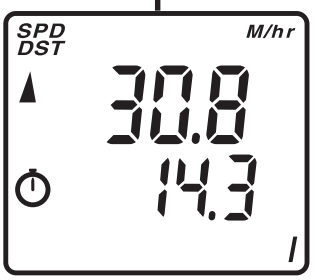


STP/IDS画面モードにおいて、ボタン3でストップウオッチが単独で使えます。STPはRT/TTタイマーと関連して動き(ストップウォッチアイコンが必ず見えている状態)、ボタン3を押してスタート及びストップします。

中間走行距離は移動中の途中から途中までの距

離を測定します。IDSは全般的な移動距離や現在の乗車データには影響しませんが、DST機能と同じように働きます。タイマーが機能している状態でのSTP/IDS スクリーンモードで、ボタン３を押してストップウオッチとIDS機能をスタートさせます。ボタン３を再度押して機能をストップさせ、データを見直すためにフリーズさせます。ボタン３を２秒間押して、STPとIDSをリセットします。

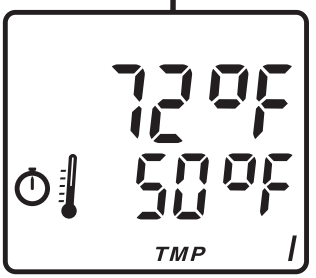
デュアルバイクメモリー　I II



V100は２台の自転車で共用することができます。車輪サイズ、サービスタイマーセッティング、走行距離計セッティング、時間フォーマット、温度、スピード、距離を別々に記録できます。現在のバイク番号（ＩまたはⅡ）は常に画面右下に表示されます。コンピューターを素早くバイクＩからⅡへ切り替えるにはセットアッププログラムの中の第一画面へ戻ります。（P.19セットアップモード＆プログラミング参照）

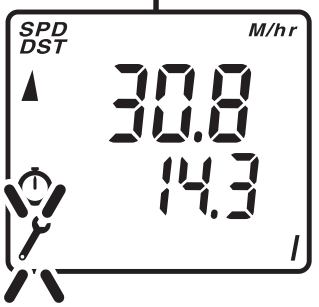
7.V100付加機能&特徴

最高&最低気温



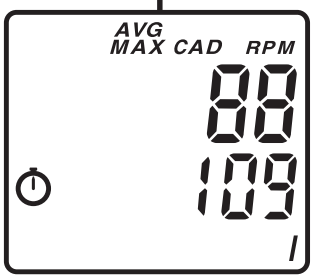
最高/最低気温の読込みを両方表示させるには、温度SPD/TMP画面モードでボタン１を２秒間押します。初期SPD/TMP画面モードに戻るには、ボタン１をもう一度押します。タイマーをストップさせ、ボタン３を押して乗車データをリセットすると、最高/最低気温がリセットされ現在の気温が表示されます。

サービスタイマー



乗車時間が設定した時間になると、バイクやメインコンポーネントのメンテナンスチェックをライダーに警告します。サスペンションフォーク、リアショック、チェーン、その他のパーツは製造元で定められた特定間隔でのメンテナンスをする必要があります。VETTAのサービスタ

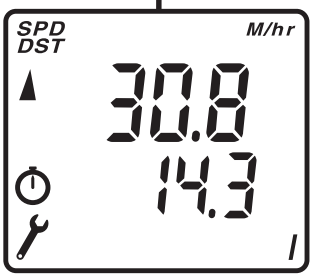
イマーではライダーが乗車時間の特定をすることができます。そしてサービスタイムのピークに達したときに表示（ゆっくりレンチアイコンが点滅）で知らせます。（P.19セットアップモード&プログラミング参照）



平均ケイデンス * AVG CAD

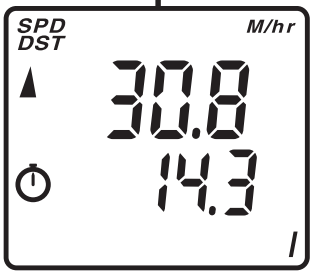
最大ケイデンス * MAX CAD

*（オプション）
V100は画面上段に平均と最大クランク回転数が表示されます。SPD/CAD画面モードでボタン１を２秒間押すと、平均と最大のケイデンスが上部と下部のラインにそれぞれ表示されます。ボタン１を再度押してSPD/CAD初期画面へ戻ります。



電池残量警告

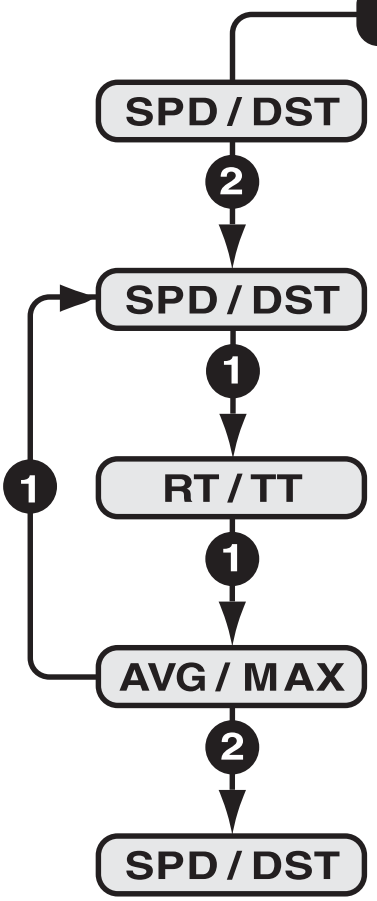
V100サービスタイマーアイコンはヘッドユニットの電池残量が少なくなった事を知らせてくれます。電池残量が少なくなり、交換が必要になると、サービスアイコン（🔧）が点灯します（点滅なし）。できるだけ早くヘッドユニットの電池を交換してください。サービスアイコンの早い点滅は電池残量が少ないか、タイマーセットをした時間警告の両方を意味しています。



速度比較警告

速度警告は現在スピードが現在平均スピードより上か下かを示します。オーバー（▲）かアンダー（▼）は初期画面モードの左上部分に現れます。速度警告はSPDとAVGが同じ場合は表示されません。

フリーズフレームメモリー（設定確認機能）



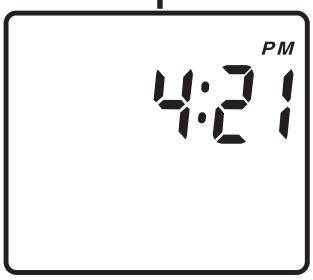
レースやトレーニング中のどんな時でも３初期画面から確認用にライドデータを見ることができます。フリーズフレームを機能させるには、初期画面モードでボタン２を２秒間押します。画面が点滅してフリーズされたことを合図します。コンピューターは引き続き走行乗車データを記録します。フリーズした画面はボタン１を繰り返し押すことにより進みます。ボタン２を押すとフリーズフレームからその前の画面モードに戻れます。

注: 走行乗車時間／総乗車時間（RT/TT）がフリーズフレームの状態で作動している時（ボタン２を２秒間押す）、その前にフリーズした走行乗車時間は表示されません。乗車終了後にタイマーを止めて、初期画面とスイッチすることにより「最終乗車」データを見ることができます。そしてRT/TTタイマーオフにしてフリーズフレームを作動させることにより最後のフリーズフレームデータ画面が記録されます。

自動スタート

RT/TTタイマーがゼロ（0:00:00）を読み込んでいる場合、VETTA V100コンピューターは車輪からの信号を受信すると同時に自動的にスタートします。RTとTTのタイマーは作動し、他の走行乗車データ（SPD、DST、AVG＆MAX SPD、CAD（オプション）、AVG＆MAX CAD（オプション）、ODOが蓄積されます。

注: タイマーが手動で止められた場合及びクリアされていない場合は、RTとTTはRT/TT画面モードからボタン３を手動で押して再スタートさせなければいけません。



スリープモード

電池量を節約するために、ボタンからの入力、車輪の動きやケイデンスが 5 分間なかった場合にV100コンピューターはスリープモードに入ります。この時、画面は時刻が表示されます。ボタンからの入力、または車輪/クランク（コード式のみ）の動きを受信すると、コンピューターは自動的にスリープモードから出て、最後に表示されていた画面に戻ります。時計（CLK）、ストップウォッチ（STP）と総乗車時間（TT）はスリープモードの間も動き続けています。

走行乗車データリセット

現在の走行乗車データ（DST、RT、TT、AVG＆MAX　SPD、AVG＆MAX　CAD（オプショナル）、MAX/MIN　TMP、STP、IDS）をリセットするには、タイマー（RT/TT）がオフになっていることを確認し、STP/IDS以外の初期画面でボタン 3 を 2 秒間押します。

オールクリア（トータルリセット）

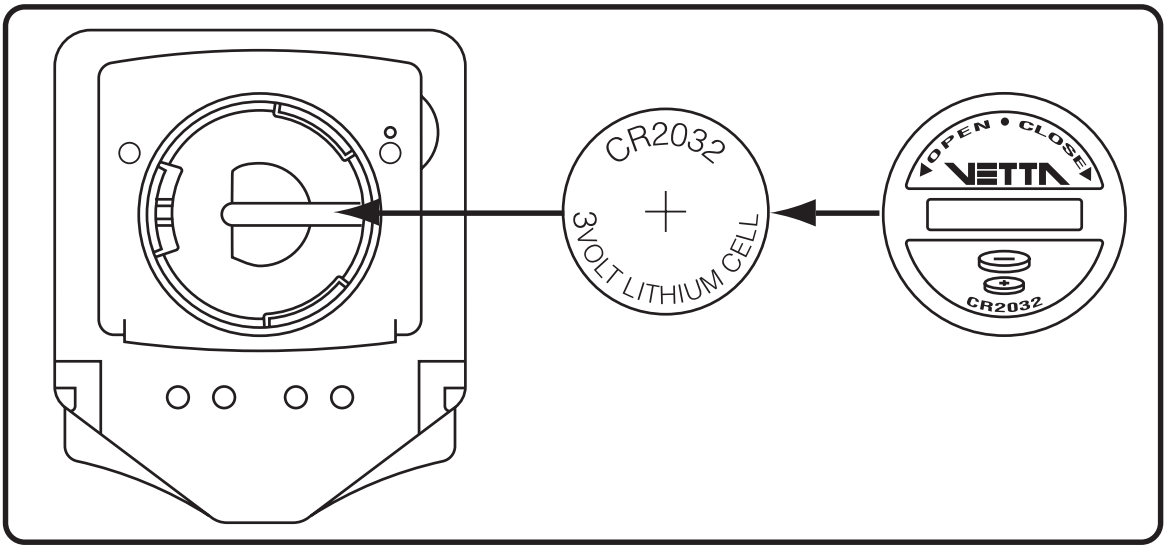
セットアップで入力した全てのデータや蓄積された走行乗車データは、オールクリア（トータルリセット）を実行することによりコンピューターをクリアするには、どの画面モードの時でも 3 つのボタンを同時に 5 秒間押します。コンピューターがリセットされたら、マスター画面が現れ、全ての画面が 3 秒間表示されます。コンピューターは自動的に再プログラムするために初期セットアップモードになります。

8.電池のセット

ヘッドユニット

V100ヘッドユニットはCR2032 3V リチウム ボタン 電池を使用しています。

重要:サイクルコンピューターの主な作動不良の原因は電池の消耗です。詳細はこのマニュアルの「トラブルシューティング(P38)」をご覧ください。



ステップ1: 硬貨を用いてコンピューターの裏からバッテリーカバーをはずし、古い電池を取り出します。

ステップ2: 新しい電池を+側が外に向くように入れます。取り替え中には、電池の接触装置を触わったり曲げたりしないでください。

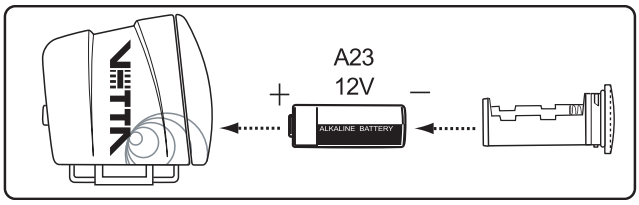
ステップ3: バッテリーキャップをきっちりとねじ込み、オーリングシールが挟まったり、ゆがんでいないか確認してください。

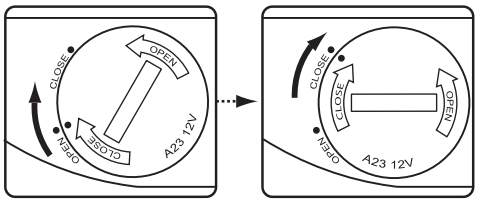
警告 **バッテリーキャップを締め過ぎると損傷する恐れがありますので、きつく締め過ぎないようにしてください。**

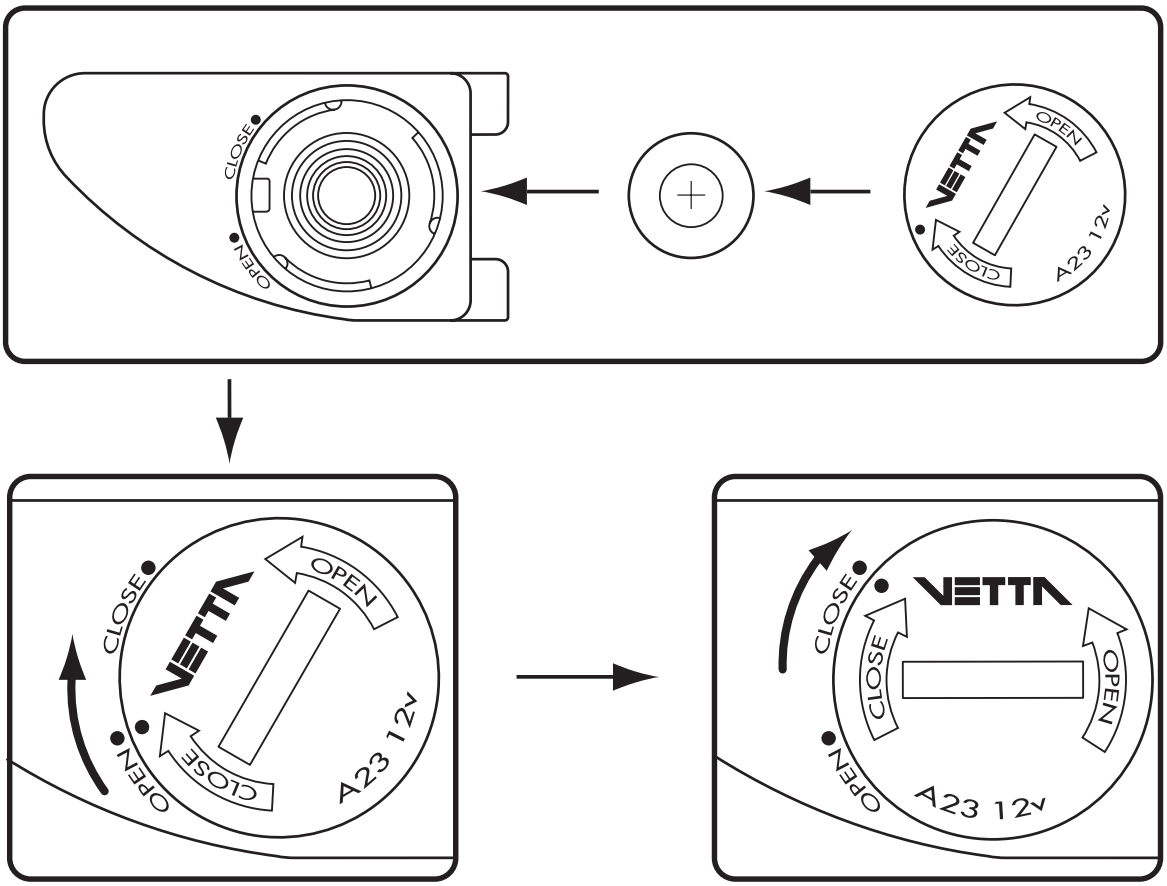
ワイヤレストランスミッター

V100 ワイヤレストランスミッターはA23 12v 電池を使用しています。キャップをはずし、電池の＋側を上になるように入れ、バッテリーキャップを締めてください。

警告 トランスミッターバッテリーキャップがきちんとはまっているかを確認してください。(正確にシグナルを送るためです。)







9.セットアップモード&プログラミング

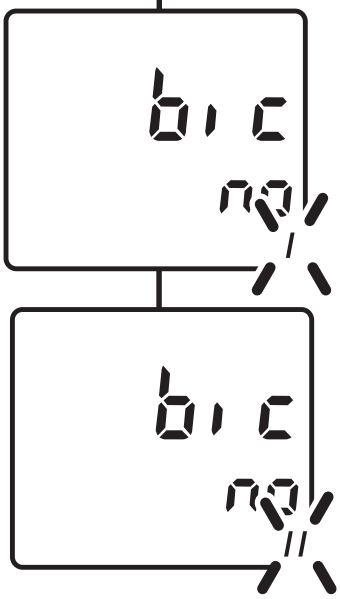
イントロダクション

電池取り替え後、マスター画面が現れ、すぐ自動的に初期セットアッププログラムモードになります。
注:NOM(通常操作モード)でセットアップに入るには、RT/TTタイマーをオフにしてSPD/DST画面モードでボタン1と2を同時に2秒間押します。NOMセットアップから出るにはボタン3を押してください。

セットアップモードではライダーに合った数値単位を選択できます。初期セットアップモードのすべてのステップは予めプログラムされています。入力エラーをした場合は、初期セットアッププログラムを済ませ、上記の通りNOMモードから再びセットアップを行い、セッティングを修正してください。

セットアップで、ボタン2を押して、M/hrやKM/hrなどの可能なユニット設定を変えます。ボタン1を押して数値単位を確定し、次の項目や画面に進むことができます。 ボタン3を押すと常にNOMセットアップから、直接システムチェック画面になります。
注:セットアップの最中に約5分間どのボタンも押さないと、コンピューターは自動的にスリープモードに入り、それからNOMモードに戻ったときには最後に表示されていた画面になります。

セットアップ：バイクⅠ＆バイクⅡ



バイクⅠの初期画面は“bic no”の文字が表示されます。バイクⅠとⅡのセッティングを変えるには、ボタン２を押します。バイク“Ⅰ”アイコンが点灯している時は、ボタン１を押してそれを選び、次のセットアップ画面に進みます。

注: セットアップでバイクⅡをプログラムしているとき、ボタン２で“Ⅱ”、ボタン１で確定させ、上記で説明したように進めます。V100コンピューターはバイク“Ⅰ”とは別にバイク“Ⅱ”に入力されたセッティングを保存します。

車輪周長の計算

車輪の円周はミリメーター単位で測定し入力して下さい。バイクⅠとⅡの車輪サイズは個々に設定できますが、両方とも初期設定で**2074mm**（700c×20cまたは26×2.0）に設定されています。以下の表は、もっとも一般的な車輪サイズの円周測定値のリストです。

タイヤサイズ	周長	タイヤサイズ	周長
700c x 38mm	2180	27" x 1-1/4"	2161
700c x 35mm	2168	27" x 1-1/8"	2155
700c x 32mm	2155	26" x 2.25"	2115
700c x 30mm	2145	26" x 2.1"	2095
700c x 28mm	2136	26" x 2.0"	2074
700c x 25mm	2124	26" x 1.9"	2055
700c x 23mm	2105	26" x 1.75"	2035
700c x 20mm	2074	26" x 1.5"	1985
700c Tubular	2130	26" x 1.25"	1953
650c x 23mm	1990	26" x 1.0"	1913
650c x 20mm	1945	20" x 1-1/4"	1618

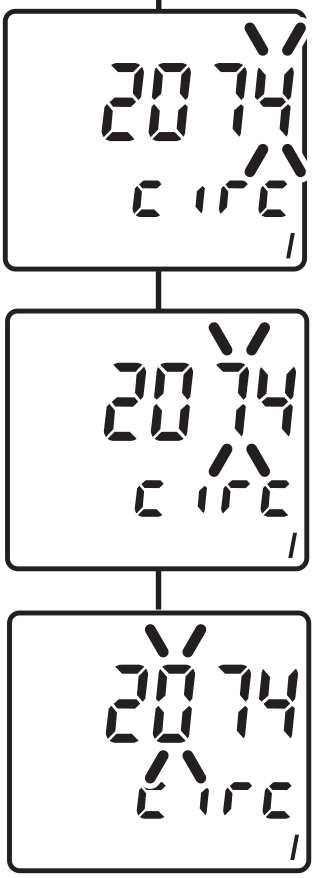
自分の車輪サイズがこの表にない場合、またはもっと正確な径が知りたい場合は、下記の手順で車輪の円周が測定できます。

ステップ 1： 前輪アクスルの中心から地面までをミリメーターで測定します。(1インチ＝25.4mm)

ステップ 2： この距離に6.2832(2πを掛け、その結果を車輪サイズセッティングとしてコンピューターに入力します。

または…タイヤの床に接地している点にマークをつけ、車輪をタイヤのマークが再度床にタッチするように一回転させます。床の上についたマークとマークの間の距離をミリメーター単位で測定し、その結果をコンピューターに入力します。

セットアップ：車輪の周長



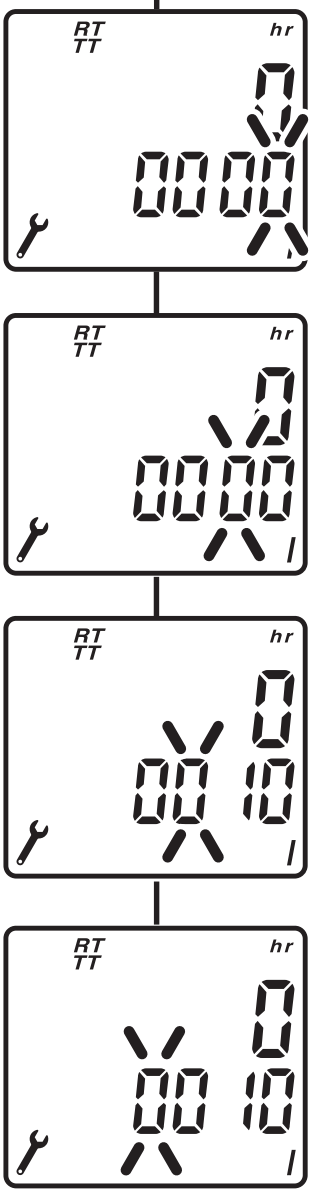
バイクナンバーが選択されると、次に車輪サイズセットアップ画面になります“circ”が小文字で下段に表示され、初期設定の2074が表示され、“4”が点滅します。

ステップ 1： 特定の車輪サイズ(P20車輪周長の表参照)を入力するには、点滅している数値をボタン 2 で変更します。

ステップ 2： ボタン 1 を押すことにより数値が確定され次の位(左)へ進み、点滅します。

ステップ 3： ボタン 2 を押すことにより、点滅している数値を変更することが出来ます。4 桁の数値を確定するまで、この手順を繰り返します。コンピューターは自動的にサービスタイマーセットアップスクリーンに進みます。

セットアップ：サービスタイマー



サービスタイマーは、乗車時間と自転車その他のコンポーネント（フロントやリアショック）のメンテナンスの間隔をプログラムすることができます。蓄積された乗車時間は上段に表示され、間隔セット済みのサービスタイムは下段に表示されます。サービスタイマーモードでは時間の数値が下段右側に点滅表示されます。

注：サービスタイマーの初期セッティングは“0:00:00”になっていて、それはすなわちサービスタイマーがオフになっていることを示しています。

ステップ１： サービスインターバル（時間単位）をセットするには、車輪の周長を設定するときと同じ手順で行います。ボタン２で数値を変更し、ボタン１で確定・左へ進みます。

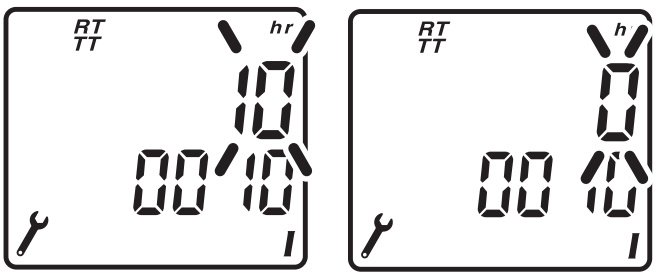
注：サービスタイマーのセットと表示は時間単位のみの表示で、分単位では表示されません。

ステップ２： サービスインターバルが選択されている数値をすべて設定したのち、ボタン１を再度押します。（1999時間が最大値）

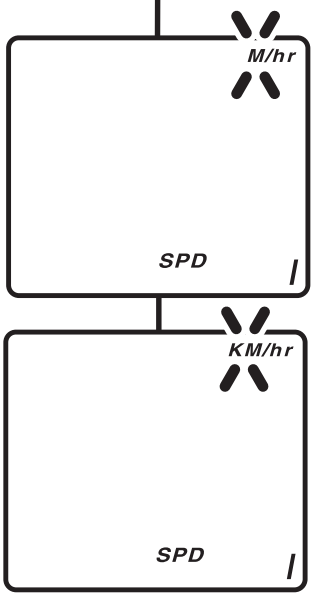
サービスタイマーにおける注意点

- 蓄積乗車時間（上段）は他のタイマーと関連して働き、車輪が回り始めると同時にスタートします。車輪が３秒間動かないと自動的にストップします。
- サービスタイマー画面は、セットアップモードでもシステムチェック画面の途中からでも確認することができます。SPD/DST画面から、RT/TTタイマーをオフにして、ボタン１と２を同時に２秒間押すことによりセットアップすることができます。

- サービスタイマーアイコンの点滅を止めるには:
  Ａ)NOMセットアップシークエンスから蓄積乗車時間(上段)をゼロ“０”にリセットします。サービスタイムインターバルはこの時再プログラムされます。
  Ｂ)TTセッティングを蓄積RTよりも大きい数値に変更します。
  Ｃ)TTをゼロ“0000”にセットし、サービスタイマーを無効にします。
- 初期画面またはNOMセットアップモードでサービスタイムインターバルの数値を“0000”に設定して入力することにより、サービスタイマーオプションは無効になります。
- NOMセットアップでTTサービスタイマーインターバルを設定または再設定した後、蓄積乗車時間の数値(上段)は点滅し始めます(下記のイラスト参照)。ボタン２を２秒間押して、RT数値をゼロにリセットします。ボタン３を押してNOMシステムチェックを終了させます。ボタン３を再度押してSPD/DST 初期画面に戻ります。

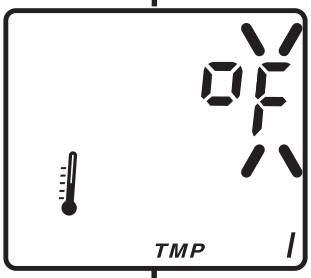


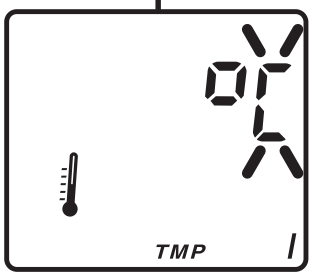
ステップアップ：スピード単位



アイコン“M/hr”が画面に現れ、Ｍの字が点滅します。（速度の単位としてマイルを選択するには、ボタン１を押してください。)kmを選択するには、ボタン２を押すとKM/hrか“KM”の文字が点滅して表示されます。ボタン１で確定され次の画面に進みます。

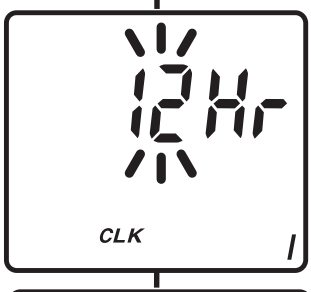
セットアップ：気温の単位

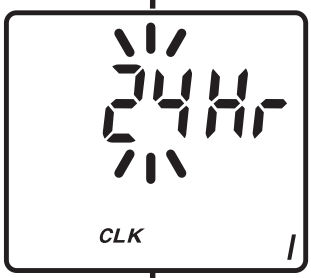


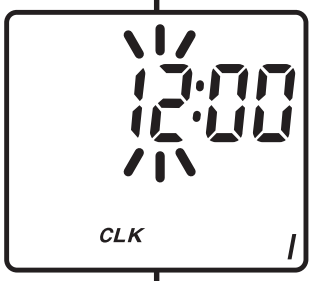


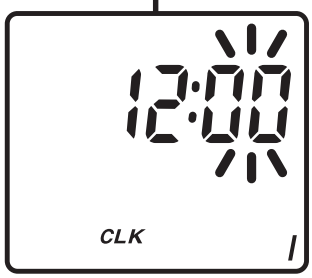
温度計アイコンが表示されたら、セットアップ画面モードになっていることを示しています。（“F”が点滅している場合は華氏温度を示します。温度読込を華氏温度表示するにはボタン１を押します。）ボタン２で摂氏温度を選択することができます。“C”が点滅していることを確認し、ボタン１を押して次の画面へ進めます。

セットアップ：時計









V100の時計は12または24時間制のどちらかを選択できます。“PM”表示は12時間制でセットした時のみ表示されます。下記の手順で設定してください。

ステップ1: ボタン２で２種類の時間（12時間か24時間）を変更させます（番号が光る）。

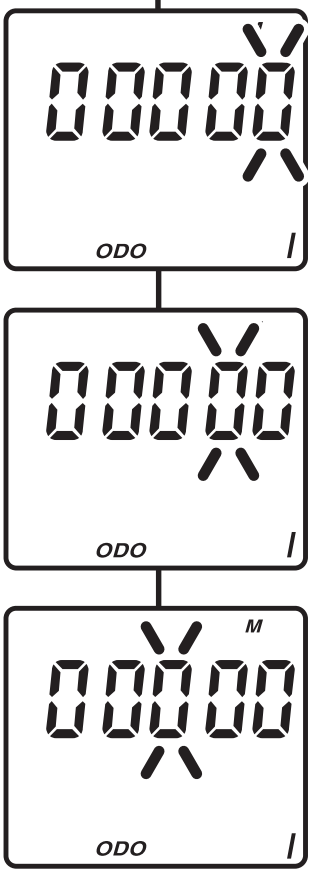
ステップ2: ボタン１を押して希望の時間単位を選択し、時間数値が点滅した状態で時間設定画面へ進めます。

ステップ3: 現在の時刻をセットするには、ボタン２で時間単位を調整します。ボタン１を押して確定します。

ステップ4: 同じ操作で分単位も設定し、現時刻を合わせます。そしてボタン１を押し確定させ次の画面に進めます。

注: 時計の時刻設定はひとつですが、12時間/24時間のどちらでもバイク「Ⅰ」と「Ⅱ」にセットできます。

セットアップ：走行距離計



バイク「I」と「II」は別々の走行距離計を持っています。新しいコンピューターでの走行距離計画面は“00000”となっていなければなりません。初期のゼロセッティングを確認するには、ボタン１を押し、引き続いて各々の点滅している数値を選択し、システムチェックに進みます。電池交換後、交換前に達成した距離を再入力するには、下記の手順で行ってください。

ステップ1: 一番右の数値が点滅し始めたら、ボタン２で位を選択します。

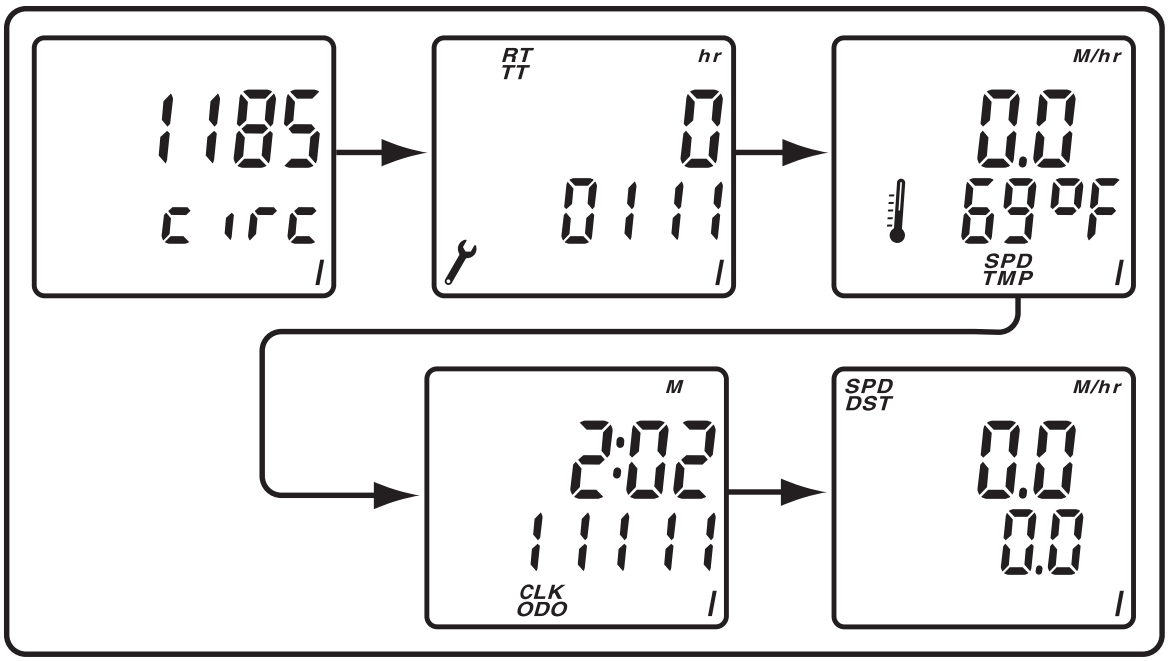
ステップ2: ボタン１を押して、この数値を設定し、次の点滅している数値へ進みます。

ステップ3: この手順を各々の数値で正しい距離の数字（最大は99999）になるまで繰り返します。ボタン１が押されてシークエンスの最後の数値を選択すると、走行距離計のセッティングは完了で、コンピューターは自動的にシステムチェック画面へ進みます。

セットアップ：システムチェック

プログラムされた走行距離計が設定された後、初期と通常作動時にはセットアッププログラムが自動的にシステムチェック画面へと進みます。システムチェックは、４画面が点滅しセットアップの間に選択された全ての数値と単位のセッティングが表示されます。各々の画面は５秒間ずつ表示され、点滅します。確認が完了したら、コンピューターは自動的にセットアップから、SPD/DST画面モードに入ります。数値や単位を直すには、NOMセットアッププログラムに再び戻ってください。

注: システムチェックは次の２つの方法で出来ます。
１)NOMセットアップ中にボタン３を押します。
２)初期またはNOMセットアップの最後に自動的にできます。
NOMシステムチェックを切り替えるためには、ボタン３を押して
SPD/DST初期画面モードへ戻ります。



10.組み付け

コード式

スピードセンサーとマグネット

備考：コード式ケイデンスセンサーはオプションになります。
組み付けには、別冊の「**WIRED SPEED & CADENCE / WL2X DOUBLE WIRELESS SPEED & CADENCE INSTRUCTION MANUAL**」を参照してください。

ステップ1: 付属のタイラップを使用して、コード式スピードセンサーをフロントフォークに軽く固定します。フォークレッグの内側で、できるだけ上に取り付けてください。そうすることで乗車中に岩や枝、その他障害物から守ることができます。（図1）

ステップ2: スポークマグネットをセンサーの位置合わせラインを通過するように前輪スポークのセンサーと同じ側に固定します。（図1、2）

ステップ3: 位置合わせスペーサーをマグネットに仮取り付けします。（図3）

ステップ4: マグネットに取り付けたスペーサーの先端が位置合わせマークに軽く触れるまでセンサーを動かしてください。（図4）

ステップ5: 余ったセンサーワイヤーをフォークレッグにコード巻きテープ等で固定します。前ブレーキアウターワイヤーに余分なセンサーワイヤーを巻き付け、マウンティングブラケットを簡単にハンドルバーに取り付けられる余裕を残し、バーとステムを十分に動かせるようにしてください。

注：車輪センサーをサスペンションフォークに取り付ける際には、フォークが完全に伸びていていることを確認した上で、マウンティングブラケットに充分に届くワイヤーの長さがあることを確認してください。余分なセンサーワイヤーは安全のためにテープ等でロアーレッグに留めるかブレーキアウターワイヤーに巻き付けてください。

ステップ6: タイラップを締め込んでセンサーを最終位置に固定します。

ステップ7: 位置合わせスペーサーを取り除きマグネットとセンサーの間隔が同じ状態にあるかを確認してください。(図5)

備考：タイラップ締め込みを補助するような工具を使用してタイラップの最終固定をしないようにしてください。センサー、トランスミッターの故障の原因になります。

図1

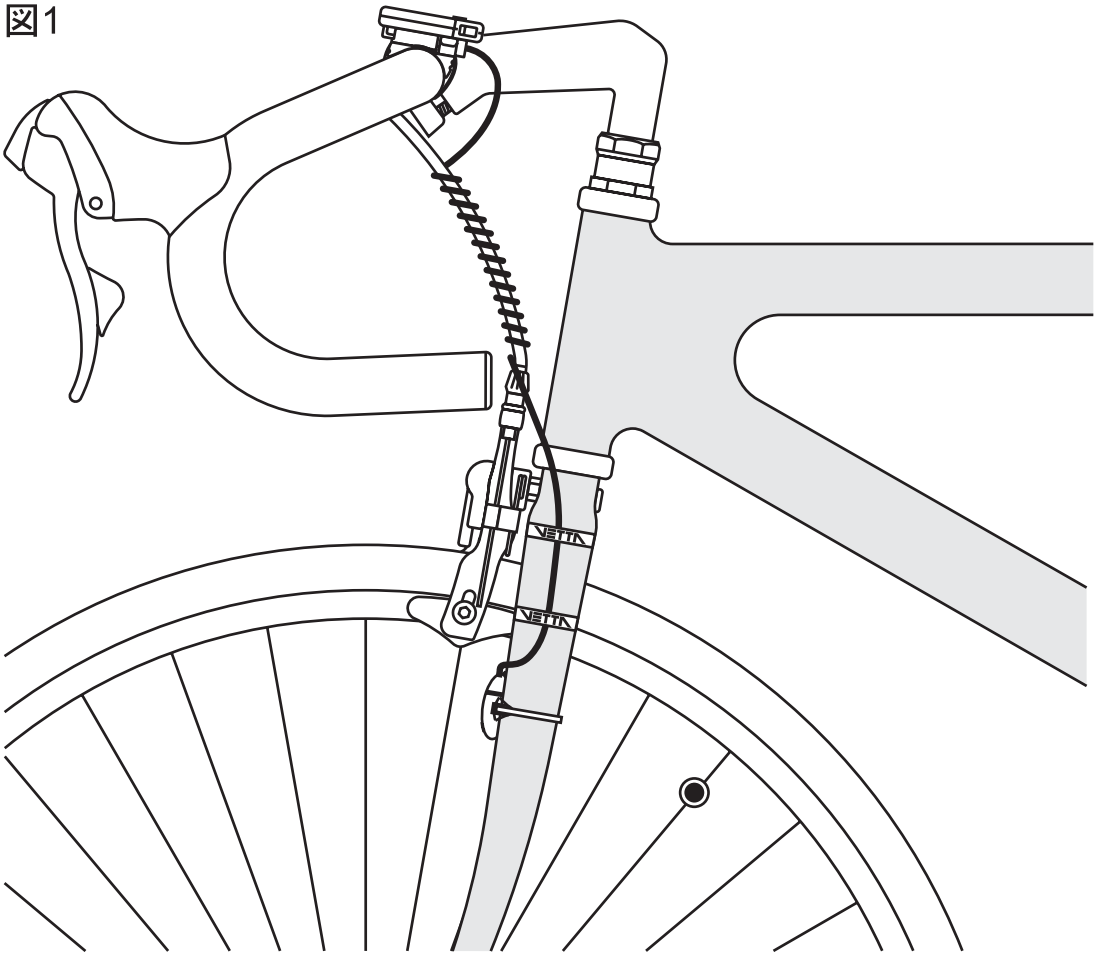


図2

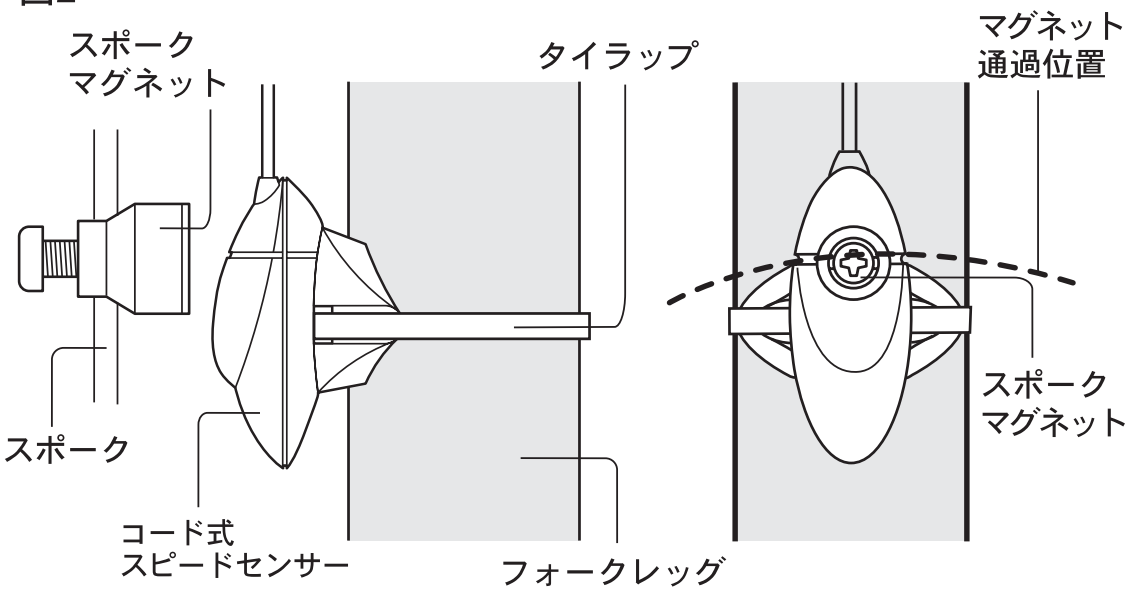

スポーク
マグネット
タイラップ
マグネット
通過位置
スポーク
スポーク
マグネット
コード式
スピードセンサー
フォークレッグ

図3

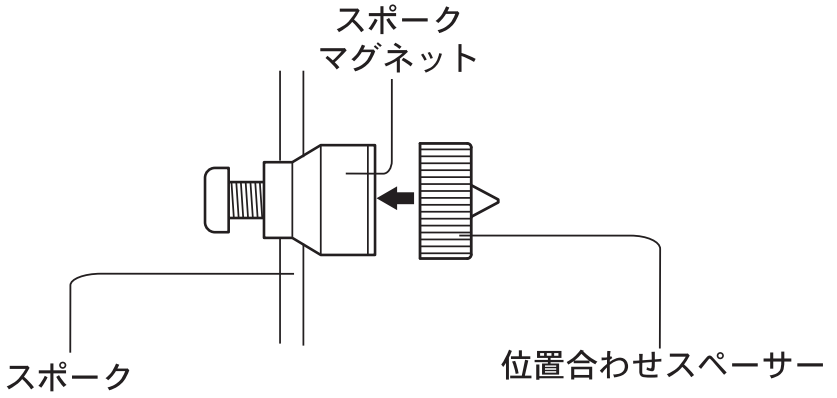

スポーク
マグネット
スポーク
位置合わせスペーサー

図4

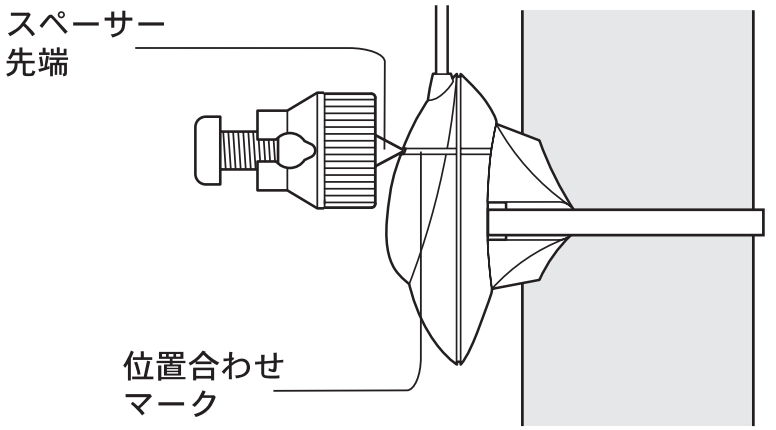
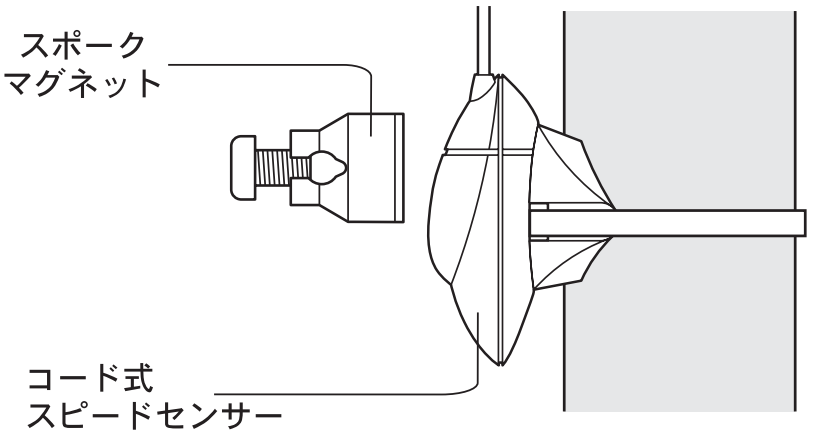

スペーサー
先端
位置合わせ
マーク

図5


スポーク
マグネット
コード式
スピードセンサー

マウンティングブラケット

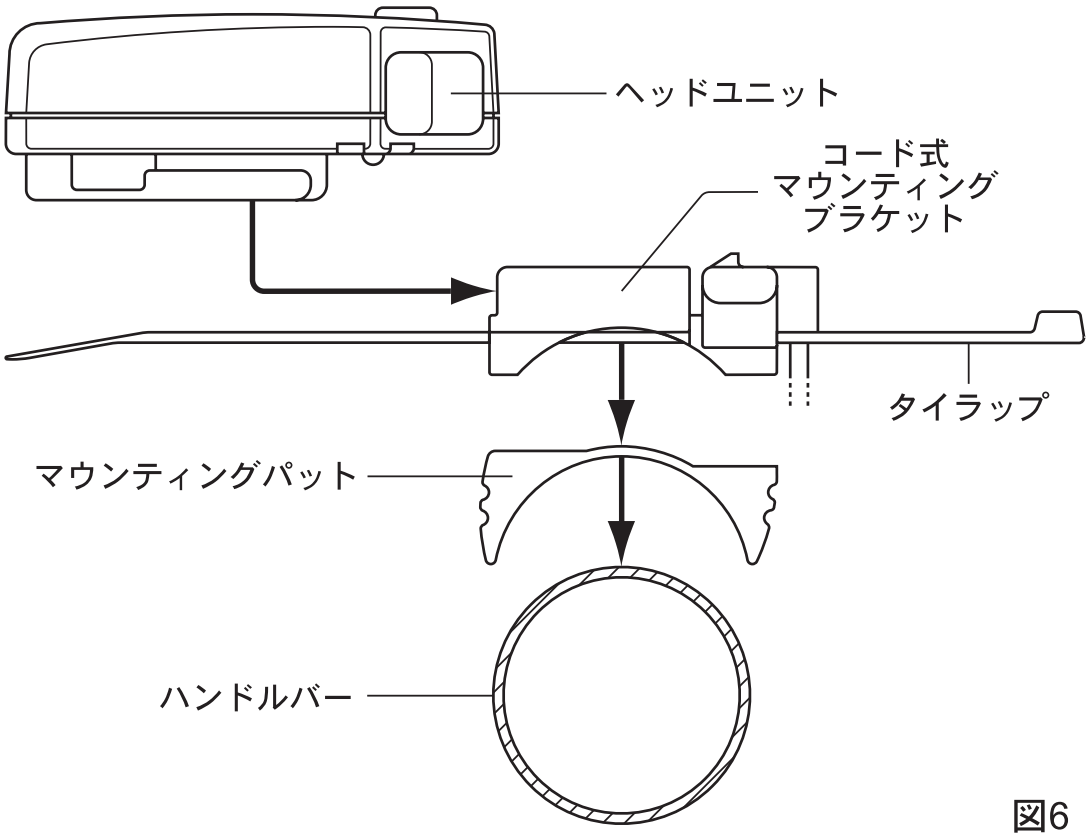


図6

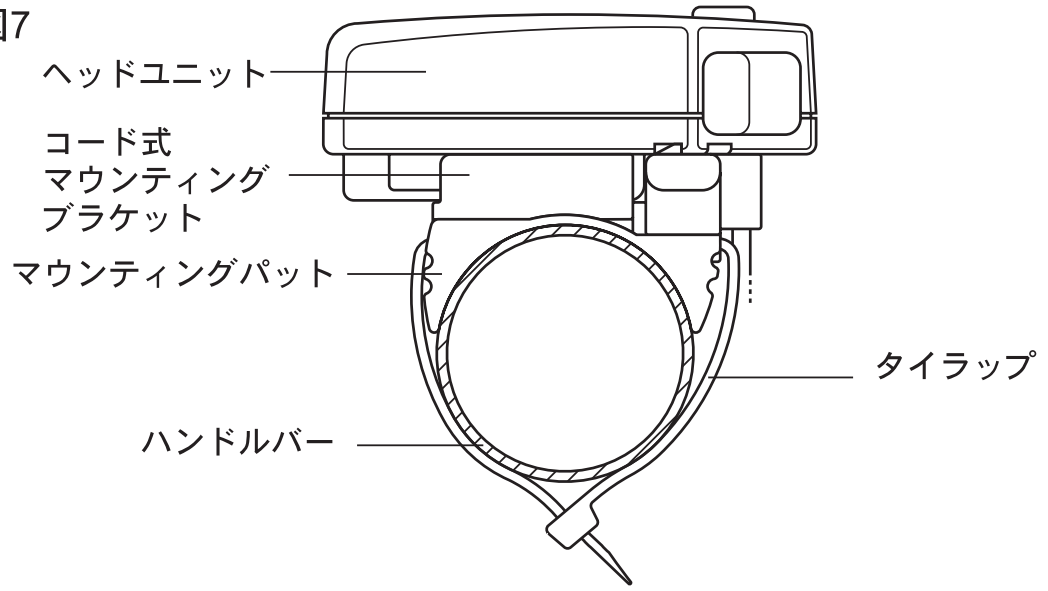
ステップ1: マウンティングパッドとコード式マウンティングブラケットを備え付けのタイラップ 2 本取り付けます。（図6）

ステップ2: タイラップを締めてマウンティングブラケットをハンドルバーに取り付けますが、きつく締め過ぎると後で調整が出来なくなるので軽く締めます。余分なタイラップは切ります。（図7）

警告：タイラップでフレーム、フォーク、ハンドルバーやステムにワイヤーを固定しないでください。コードが傷んだり、切れてしまう原因になります。付属のコード巻きテープを使用してください。

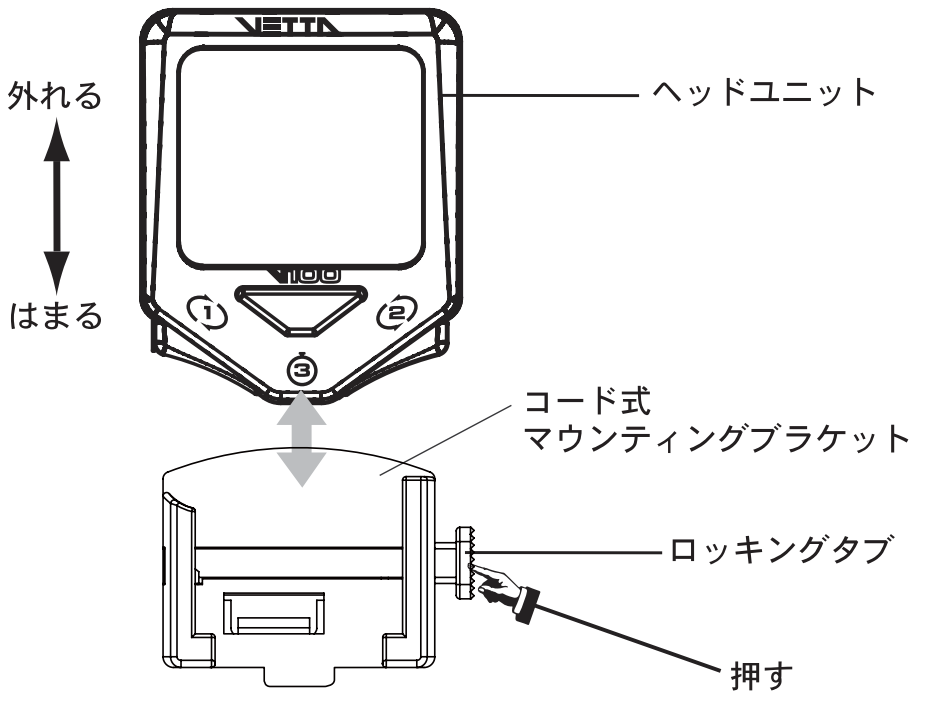
警告：マウンティングブラケットに通したタイラップは締めすぎないよう注意してください。締めすぎるとマウンティングブラケットを破損してしまう可能性があり、コンピューターの動作とともにマウンティングに取り付けたヘッドユニットにも影響を与えることがあります。

図7



ヘッドユニット

V100ヘッドユニットはマウンティングブラケットにスライドして入るように設計されており、溝にはめ込みカチッと音がするまで押し込んでください。これは、コンピューターヘッドピンとマウンティングブラケットの端子が正しくはまった証拠です。コンピューターヘッドをマウンティングブラケットから外すには、両サイドに付いているロッキングタブを内側へつまみ、ヘッドユニットを前へスライドさせ、ブラケットから外します。(図8)



WLワイヤレストランスミッターとマグネット

備考：ＷＬ２Ｘスピードとケイデンスセンサーは、オプションになります。組み付けには、別冊の「**WIRED SPEED & CADENCE / WL2X DOUBLE WIRELESS SPEED & CADENCE INSTRUCTION MANUAL**」を参照してください。

Ｖ１００は特別なアクティブマウントとＷＬワイヤレススピードトランスミッターを取り付けることにより、ワイヤレスユニットとして機能するようにデザインされています。ワイヤレス信号を最大受信するため、トランスミッターは受信マウントとヘッドユニットと同じ側に設定して下さい。

ステップ1: 付属のタイラップを使用してワイヤレス スピードトランスミッターとパッドをゆるく、左フォークレッグ前（図9A）もしくは右フォークレッグ後（図9B）に取り付けて下さい。

重　要 **ワイヤレス信号を最大受信するためにトランスミッターとヘッドユニットの距離は70cm以内であることを確認して下さい。また、トランスミッターはブレーキからの信号妨害を避けるため2～4cm（以上）はブレーキから離して下さい。**

ステップ2: スポークマグネットをトランスミッターの位置合わせマークを通過するように前輪スポークのセンサーと同じ側に固定します。（図9、10）

ステップ3: 位置合わせスペーサーをマグネットに仮取り付けします。（図11）

ステップ4: マグネットに取り付けしたスペーサーの先端が位置合わせマークに軽く触れるまでトランスミッターを動かしてください。（図12）

ステップ5: タイラップを締め込んでトランスミッターを最終位置に固定します。

ステップ6: 位置合わせスペーサーを取り除き、マグネットとセンサーの間隔が同じ状態にあるかを確認してください。(図13)

図9A

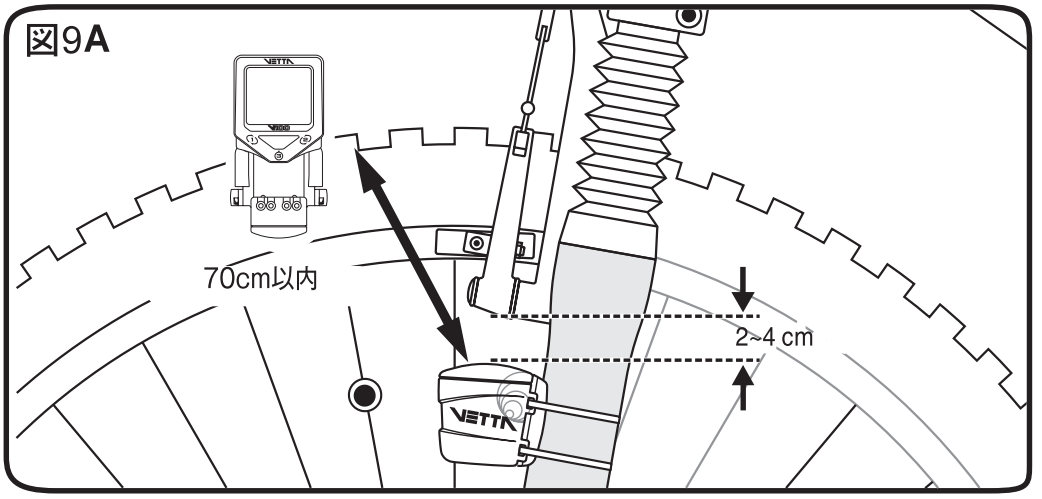

70cm以内
2~4 cm

図9B

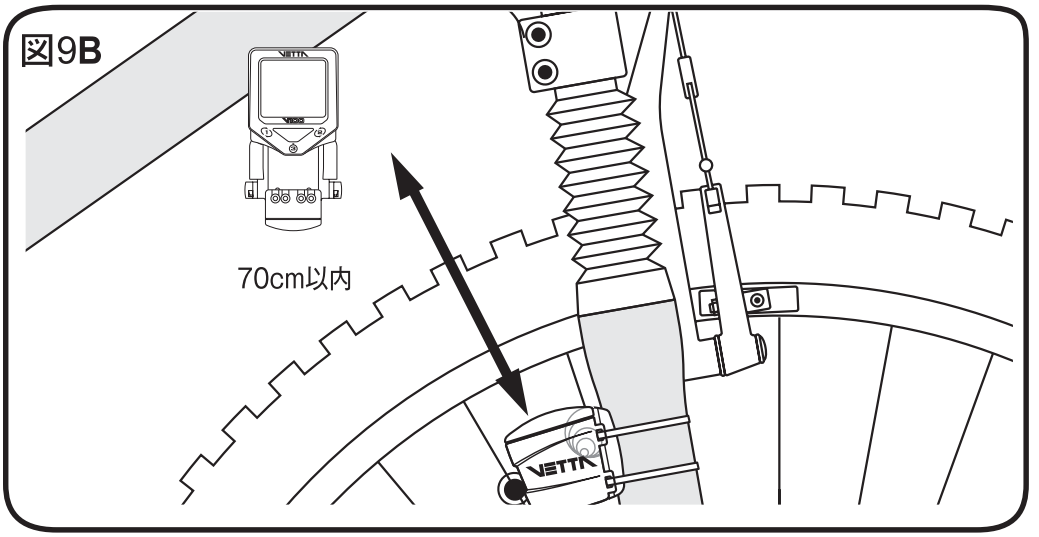

70cm以内

図10

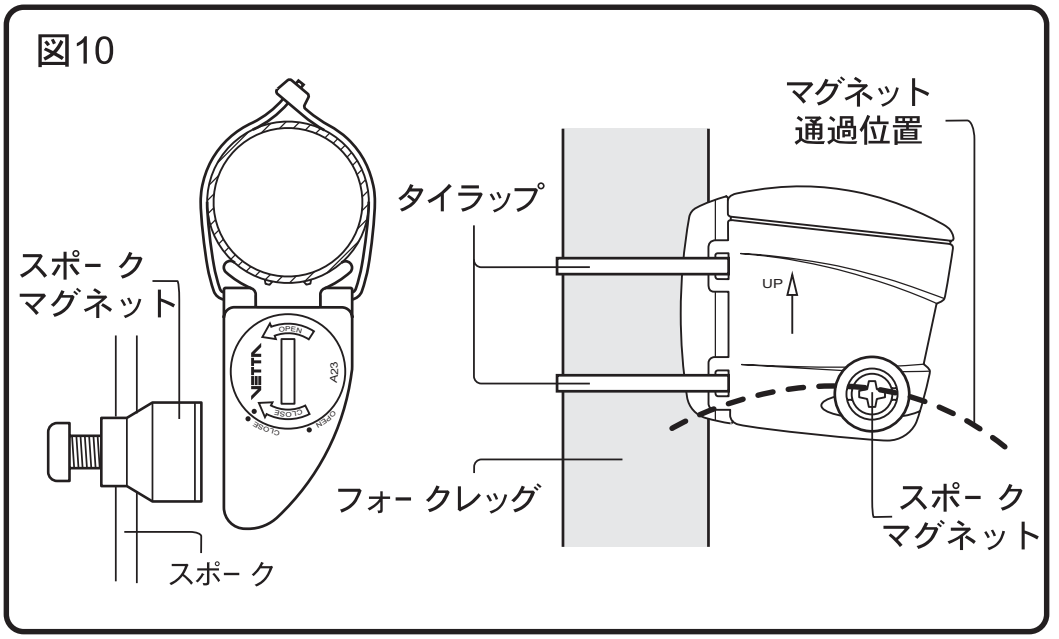

マグネット
通過位置
タイラップ
スポーク
マグネット
UP
フォークレッグ
スポーク
スポーク
マグネット

図11

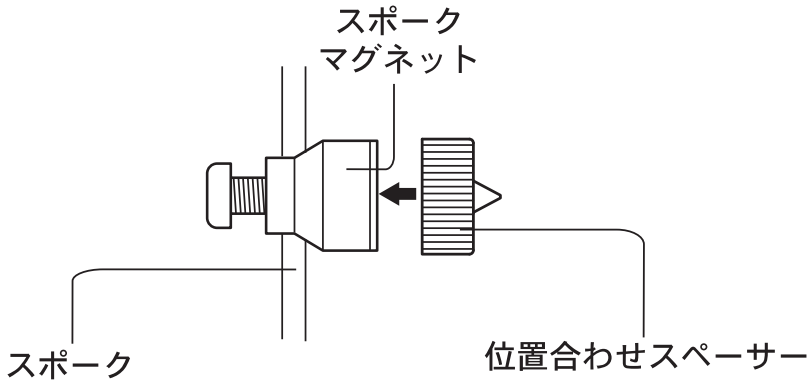

スポーク
マグネット
スポーク
位置合わせスペーサー

図12

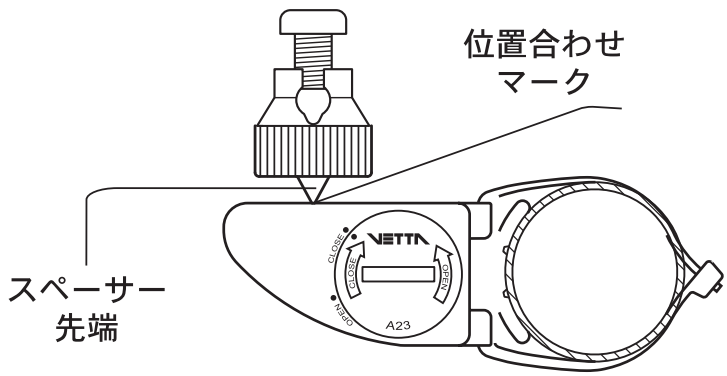
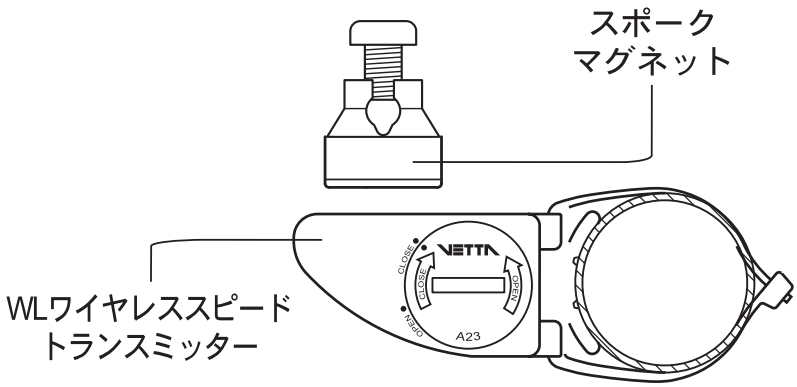
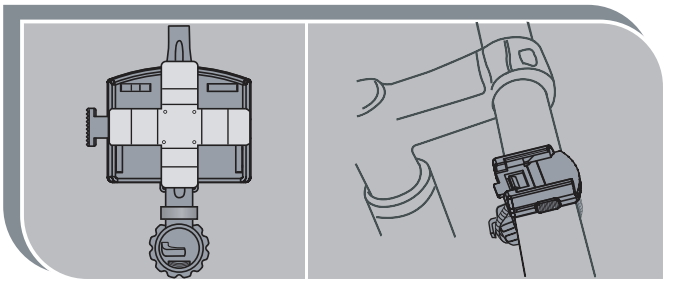

位置合わせ
マーク
スペーサー
先端
VETTA
CLOSE
OPEN
A23

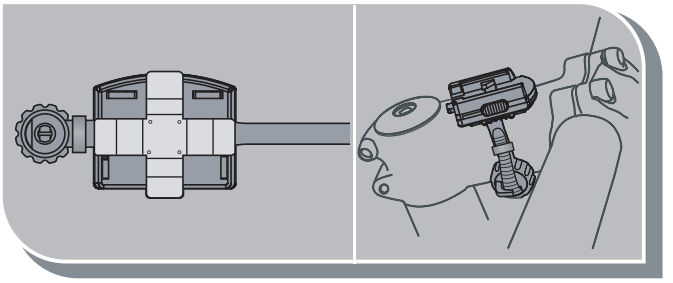
図13


スポーク
マグネット
WLワイヤレススピード
トランスミッター
VETTA
CLOSE
OPEN
A23

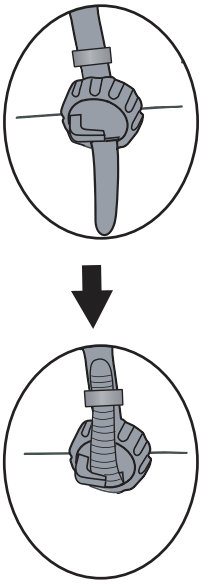
Installing the Mounting Bracket



Installing on the Handlebar



Installing on the Stem



Step 1: Insert the Screw Strap through the hole at the back of the Mounting Bracket. (Installing on the handlebar: from bottom to up; installing on the stem: from left to right).

Step 2: Attach the Mounting Bracket onto the handlebar or stem and then fasten the screw to fix it to its final position.

ヘッドユニット

ヘッドユニットはワイヤレスアクティブマウントにスライドして入るように設計されており、溝にはめ込みカチッと音がするまで押し込んでください。これはコンピューターヘッドピンとマウンティングブラケットの端子が正しくはまった証拠です。コンピュータヘッドをマウンティングブラケットから外すには、両サイドに付いているロッキングタブを内側へつまみ、ヘッドユニットを前へスライドさせます。(図16)

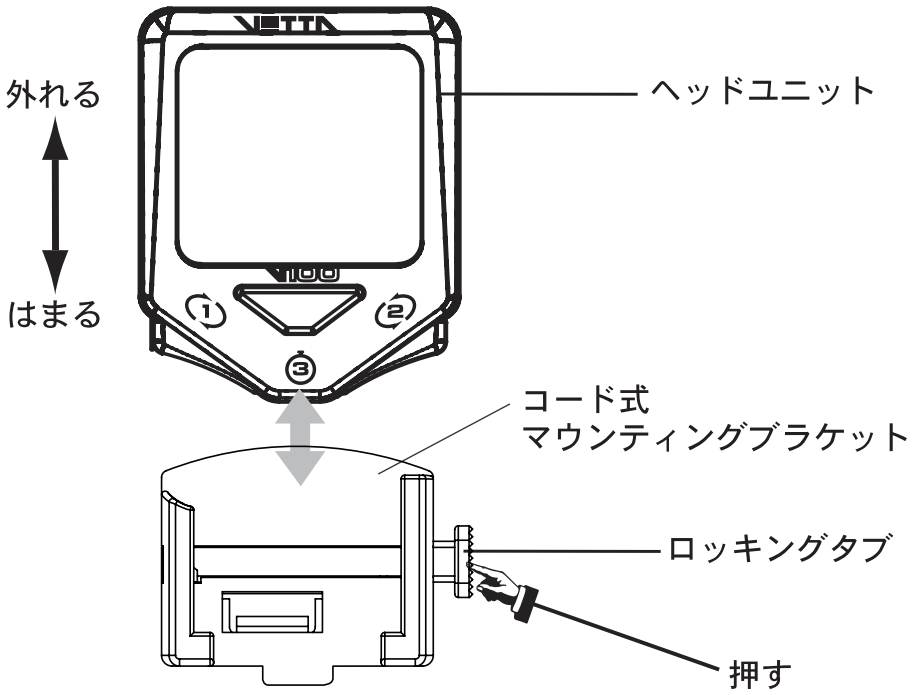


図16

組み付け後のテスト

取り付けが完了したら、コンピューターが正常に作動するか確認するためにテストしてください。

ステップ1: ボタン 2 を使ってコンピューターをSPD/DST画面モードへ進めます。

ステップ2: 自転車のフロントを持ち上げ、前輪を回転させます。コンピューターは2-3秒以内にスピード読込み表示をします。

もしスピード読込みが表示されない場合は、タイマー(RT/TT)が作動しているか、マグネットとセンサー/トランスミッターの距離と平行に並んでいるか、ヘッドユニットが完全にはまっているかを確認してください。もしこのチェックをしても問題が解決しなければ、お買い上げの販売店へご相談ください。

重要：上記の取り付けテストを行うには、スポークマグネット固定ボルトや全てのタイラップがきちんと締まっているかを確認してください。

備考：トランスミッター、もしくはハンドルバーの角度を微調整することにより信号の送受信を改善することができます。自転車によっては通常とフレーム形状が異なる場合がありますので、その場合は部品側の角度を調整して信号の送受信を調整してください。

11.トラブルシューティング

問題点／チェック事項／解決方法：サイクリング

- **現在のスピード読込みが不規則または表示されない**
  車輪マグネットとセンサーの並びと、トランスミッターとヘッドユニットの間の距離を確認します。タイマーが作動していることも確認してください。位置合わせスペーサーを使用して、センサーとマグネットの角度を再調整します。RTとTTが機能することを確認してください。

- **現在のスピード読込みが不規則または表示されない**
  コードに損傷やねじれがないかを確認してください。マウンティングブラケットとセンサーを必要に応じて交換してください。

- **操作中に間違ったデータが表示される**
  セットアップデータが正確に入力されていません(車輪円周セッティング、バイクナンバー、その他)。システムチェックモードでデータを必要に応じて修正してください。

- **データ表示が異常に遅い**
  コンピューター液晶は異常に低い温度では正確に作動しにくいです。動作範囲は：0℃から50℃です。コンピューターを常温内に戻してください。

- **画面が暗く、表示文字が変に見える**
  長時間にわたる直射日光は、コンピューターに悪影響を及ぼします。画面が直るまで日陰にコンピューターを置いてください。データには影響はありません。

- **画面読込みが弱く、ぼやけている**
  電池残量が少ないときの症状です。電池を交換してください。

- **画面読込みが不規則で高すぎたり、低すぎたりする**
  電池残量が少ないときの症状です。電池を交換してください。

- **画面が固まり、ボタンに反応がない**
  電池残量が少ないときの症状です。電池を交換してください。

- **表示が全くない**
  電池残量が完全にないか、電池が入っていないと考えられます。電池を交換してください。

12.製品仕様

現在速度(SPD)	0.0～120.0km/hr、0.0～75.0Mi/hr +/- 0.1km/hr 又は Mi/hr 1秒毎に更新
平均速度(AVG)	0.0～120.0km/hr、0.0～75.0Mi/hr +/- 0.1km/hr 又はMi/hr 0.1マイルまたは 0.1kmごとに更新
最高速度(MAX)	120.0km/hr、75.0Mi/hr まで
積算走行距離(ODO)	0～99999km 又はマイル
走行距離(DST)	0.0～999.9km又はマイル、+/-0.1km 又は マイル
気温(TMP)	0 ° ～49℃、又は 32 ° ～120° F +/- 1 ℃又はF
時計(CLK)	12時間又は24時間フォーマット 時間／分のみ表示

サービスタイマー	1から1999時間まで +/-0.1時間
ストップウオッチ(STP)	9:59:59(10時間) +/-1.0秒
中間走行距離(IDS)	999.9km又はマイルまで
走行乗車時間／積算走行乗車時間(TT)	9:59:59(10時間)その後0:00:00に戻る
ケイデンス(CAD)(RPM)＊オプション	15～255 RPM +/- 1 RPM
データ送信距離	ヘッドユニットからトランスミッターまで: WL：70cm（28インチ）
バッテリー	**ヘッドユニット** CR2032　3Vバッテリー **WLワイヤレススピードトランスミッター** A23 12vバッテリー
バッテリー寿命	**ヘッドユニット** コード式 300日 ワイヤレス160日 **WLワイヤレススピードトランスミッター** 180日 (1時間／日)

13.保証規定

保証

ライトウェイプロダクツジャパン株式会社並びにVETTA USAとAH VETTA グループを含む VETTA社は、全てのVETTA製品を保証し、最初にお買い上げいただいたご購入者に限り、製品の材質上、構造上及び組み付け上の欠陥について、ご購入の日から１年間に限り保証します。明らかに欠陥とみなされる製品は修理または交換いたします。ここに提示されている保証書は、表現されているいないにかかわらず、全て他の保証書の代わりとなります。商品としての問題、個々の機能の問題等の保証は上記の保証内容に限り１年間の期間に限定して保証されます。VETTA は偶然の結果起きたダメージには責任を負いません。

交換および修理保証について

VETTA V100サイクルコンピューターの機能に何か問題が生じた場合には、お買い上げになられた販売店へお尋ねください。レシートは保証証明書となりますので、本説明書に貼り付け、大事に保管してください。

ご不明点はお買い上げになった販売店様へご相談ください。

Revised on 14 Mar. 2007 P/N: 81-036002-02 REV. 3